

はしがき

私たちは英語を勉強する過程で、さまざまな疑問にぶつかったり、不思議に思える現象に出会います。本書は、そのような中で、特に「省略」と「倒置」に焦点を当て、その疑問や「謎」を解き明かそうとしたものです。

本書で扱う問題のいくつかをあげてみましょう。私たちは中学や高校で、「命令文の主語は You で、普通は省略されるが、強調される場合は明示される」と教わりますが、Somebody call the police! (誰かすぐに警察に電話して!) のように、主語が You ではない命令文や、It'll be OK – you just wait and see. (大丈夫、成り行きを見守りなさい) のように、you が何ら強調されていない命令文をよく見かけます。また、英語の普通の文は、日本語と違って、主語が必ず必要であると教わりますが、Don't know what to say. や Looks like rain. のように、ネイティブスピーカーが主語の I や It を省略するのをよく見かけます。英語の命令文の主語やその省略、平叙文の主語の省略は、いったいどのようになっているのでしょうか。

英語では、主語だけでなく、次のように、動詞や動詞とそれに続く要素が省略されることもあります。

- (1) a. John **likes** Mary, and Tom ϕ Jane. (ϕ = likes)
- b. John can **eat beef** on Fridays, and I can ϕ on Fridays, too.
(ϕ = eat beef)

しかし、次の文でも、同じように動詞や動詞とそれに続く要素が省略されていますが、これらは英語として認められない不適格文です。

- (2) a. *John **likes** Mary, and Tom ϕ her. (ϕ = likes)

b. *John can **eat beef** rare, and I can ϕ rare, too.

(ϕ = eat beef)

英語の動詞省略や動詞とそれに続く要素の省略は、どのような条件のもとで許されたり許されなかったりするのでしょうか。

英語には、「主語＋動詞＋副詞句」という基本語順の文ではなく、(3)のように、主語の位置に there を置き、(意味上の) 主語を動詞の後ろ（や文末）に倒置した there 構文や、(4)のように、主語と副詞句の語順を入れ替えた「場所句倒置」と呼ばれる構文があります。

(3) **There is [a crystal vase full of roses]** [on the hall table].

(there 構文)

(4) [On the hall table] is [**a crystal vase full of roses**].

(場所句倒置文)

(4) の場所句倒置文は、次のように、動詞 is の前に there を入れると、たちまち there 構文になります。

(5) On the hall table **there** is [a crystal vase full of roses].

場所句倒置文と there 構文は、いったいどこが違っているのでしょうか。これら2つの構文は、まったく同じように使われるのでしょうか。

(3)－(5) の there 構文と場所句倒置文の動詞は be 動詞ですが、これらの構文には、次のように一般動詞も用いられます。

(6) Once upon a time there **lived** a king who had three beautiful daughters.

(7) Around the fire **chattered** and **sang** many girls wearing their native costumes.

しかし、どのような動詞でも用いられるわけではありません。次のような動詞が用いられている文は、まったく不自然な不適格文です。

(8) *There **swam** a couple of boys in the wide river.

(9) *Toward the people gathering in the square **shouted** / **yelled** a burly police officer.

There 構文や場所句倒置文には、どのような動詞が用いられるのでしょうか。(6)－(9) で用いられている動詞はすべて自動詞ですが、他動詞は、これらの構文に用いられるのでしょうか。これらの構文はどのような場合に適格となるのでしょうか。

本書では、以上のような問題を明らかにしたいと思います。第1章から第3章では、英語の命令文と平叙文の主語の省略について考え、第4章と第5章では、英語の動詞、および動詞とそれに続く要素（動詞句）の省略について考えます。また第6章では、従属接続詞の because や when, after や if などが、次のように、2つの文の前に1つだけ現われる場合と、それぞれの文の前に現われる場合で、何か違いがあるのか、あるとすればどのような違いがあるのかを考えます。

(10) a. **If** it's warm and it isn't raining, we have dinner outside.

b. **If** it's warm and **if** it isn't raining, we have dinner outside.

読者のみなさんは、このような考察を通して、意外で興味深い言語事実に接するとともに、英語の省略や接続詞の反復が、理路整然と規則的に行なわれていることに驚かれることでしょう。

本書の第7章から第9章では、there 構文と場所句倒置文にどのような動詞が用いられ、どのような条件のもとでこれらの構文が適格となるかを考えます。また、これら2つの倒置文がどのような点で共通し、どのような点で違っているかも明らかにします。第10章では、英語の二重目的語構文と to を用いた構文に関して、これまでしばしば指摘されてきた「受領／所有」の意味について考えます。たとえば、I kicked Mary the ball. だと、メアリーは私が蹴ったボールを受け取っていると解釈されるのに対

し、I kicked the ball to Mary. だと、メアリーはそのボールを必ずしも受け取っているとは解釈されない、とよく言われてきました。しかし、このような「受領／所有」の意味は、二重目的語構文に常にあり、to を用いた構文には常にはなく、動詞によっていくつかの場合に分かれることを明らかにするとともに、なぜそのようなのかを考えます。

本書ではさらに、5つのコラムを設けました。コラム1と3は英単語の話で、前者は、snail mail (カタツムリ便) や whole milk (全乳)、heterosexual marriage (異性同士の結婚) のような「レトロニム」と呼ばれる単語について、後者は、unputdownable (本などが面白くて途中でやめられない) や unputoffable (先延ばしできない) のような単語について解説します。コラム2では、立て札に犬のリードをつけた絵とともに書かれている Leash and Pick up after Your Pet という英語がどういう意味で、どのような構文になっているかを解説します。コラム4では、第10章との関連で、二重目的語構文と for を用いた構文には、「受領／所有」の意味があるのかを考え、コラム5では、二重目的語構文から疑問文や強調構文、受身文などを作る際に、間接目的語と直接目的語で生じる違いについて観察します。参考にいただければ幸いです。

この本を書くにあたり、多くの方にお世話になりました。特に Karen Courtenay, Nan Decker のお二人からは、本書の多くの英語表現に関して有益な指摘をたくさんいただきました。また、くろしお出版の岡野秀夫氏には、本書の原稿を何度も通読していただき、さまざまな助言をいただきました。ここに記して感謝します。

2012 年 初冬

著 者

目 次

はしがき *i*

第1章

命令文 (1) *1*

— 主語はいつも You か —

- 命令文の主語 *1*
- 主語が You 以外の命令文 *2*
- 「呼びかけ語」ではないか? *5*
- まとめ *11*

第2章

命令文 (2) *13*

— 主語 You はいつ明示されるか —

- 主語 You のない命令文とある命令文 *13*
- 強調ではない You が示される命令文 (1) *16*
 - 話し手の権威の表われ (怒りやいらだちを表わす口調で発話される)
- 強調ではない You が示される命令文 (2) *18*
 - 話し手の世話役としての権威の表われ (いたわり、優しさをこめた口調で発話される)
- 強調の You が示される命令文 — 重要度の高い情報 *22*
- まとめ *27*

コラム① Snail mail って何だか知っていますか? *28*

第3章

主語のない定動詞句文 35

- はじめに 35
- 1人称代名詞 I の省略 36
- 2人称代名詞 You の省略 42
- 3人称代名詞 He, She, They の省略 43
- It, There の省略 45
- インターネット・チャットの主語省略文 47
- 書き言葉に現われる主語のない定動詞句文 49
- まとめ 54

第4章

穴あけ規則 57

- 「穴あけ規則」と「右枝節点繰上げ規則」 57
- 穴あけ規則は、「主語+動詞表現」も省略できる 62
- 穴あけ規則は、2つの穴をあけることができる 62
- 穴あけ規則適用で残された構成要素は、
強調を受けなければならない 63
- 情報の新旧、語順、強調 66
- 穴あけ規則適用の機能的制約(1) 69
— 情報の新旧に基づいた制約
- 穴あけ規則適用の機能的制約(2) 73
— 残された2つの構成要素間の構文法的関係の復元容易性
- 結び 79

第5章

動詞句省略規則 81

- 「動詞句」という構成要素 81
- 動詞句の内部構造 84
- I eat の eat の前には、助動詞 DO が実在する 85
- 動詞句の左端に埋め込まれた動詞句 87
- 動詞句省略の謎 — 副詞句の修飾ターゲット 90
- 結び 95

コラム② Leash and Pick up after Your Pet 98

第6章

従属接続詞の反復 111

- はじめに 111
- Because 節 112
- 時を表わす従属接続詞 118
- 条件接続詞 if 124
- ここまでのまとめ 126
- The fact 構文の中の that の反復・非反復 127
- The fact that の反復 130
- まとめ 132

コラム③ Uninputdownable という単語を知っていますか? 135

第7章

書き言葉に見られる There 構文 141

— どんな動詞が用いられるか —

- 書き言葉での there 構文 141
- どんな一般動詞が用いられる? 142
- 場面設定と存在／出現 146
- 《There 構文に課される機能的制約》で説明できる例 150
- 観察者としての話し手 153
- 消滅、非存在および非出現 158
- 結び 163

第8章

場所句倒置文 (1) 165

— There 構文とはどこが違うか —

- 「場所句倒置文」とはどんな文? 165
- There 構文の意味上の主語は不定名詞句のみか? 169
- There 構文の意味上の主語は「新情報」 170
- 場所句倒置文の主語は、場所句より新しい情報か? 174
- 場所句倒置文の主語も「新情報」 178
- 場所句倒置文の主語の機能 181
- まとめ 185

第9章

場所句倒置文(2) 187

— どんな動詞が用いられるか —

- はじめに 187
- 設定された場面に主語指示物がある／あると解釈されるか? 188
- 観察者が観察している場面への主語指示物の出現 199
- 観察者が観察している場面からの主語指示物の消滅 203
- 結び 205

第10章

二重目的語構文と「所有」の意味 207

- はじめに 207
- これまでの説明とその問題点 208
- 動詞の目的語と前置詞の目的語の違い 211
- 二重目的語構文と to を用いた構文の違い 213
- 「授与動詞」はどちらの構文でも「所有」の解釈あり 216
- 「伝達動詞」(tell, show, read など)も「所有」の解釈あり 220
- teach と「授与動詞」の場合 222
- 物を送れば相手は必ず受け取るか? 225
- Write はどうか? 228
- 「将来の所有動詞」も同じ 229
- まとめ 230
- Teach で注意すべきこと 232

コラム④ 二重目的語構文と for を用いた構文に「所有」の意味はあるか? 235

コラム⑤ 間接目的語と直接目的語、「give 型」動詞と「buy 型」動詞はどこが違う? 238

付記・参考文献 246

命令文 (1)

—主語はいつも You か—

第1章

● 命令文の主語

次のような文は「命令文」と呼ばれ、疑問文や感嘆文などとともに、誰にもよく知られている文の形です。

- (1) a. Be quiet!
 b. Call the police immediately!
 c. Don't work too hard.

(1a-c) では、話し手が「静かにしなさい!」、「すぐに警察に電話して!」、「働き過ぎるなよ」のように、聞き手に命令したり、依頼したり、助言したりしています。そのため、これらの命令文には主語がありませんが、主語はもちろん聞き手の You であることは誰にも明らかです。

命令文の主語 You が、次のように明示される場合も多くあります。

- (2) a. **You** get down off of there immediately!
 「君はそこからすぐに降りなさい。」
 b. Don't **you** do it.

ここでは、話し手が聞き手に「そこからすぐに降りなさい」、「それをしてはいけない」と命令や助言をしています。

命令文 (2)

—主語 You はいつ明示されるか—

第2章

● 主語 You のない命令文とある命令文

前章の冒頭で、高校生用英文法書では、命令文の主語 You は、強調される場合に明示されるとなっていることを見ました。たとえば、主語 You のない命令文とある命令文 (1a, b) を考えてみましょう。

- (1) a. Be quiet.
b. **You** be quiet.

「強調」というのは、「(他の人や私ではなく、) あなたが静かにしなさい」というように、他の人と対比的に用いられる場合だと考えられますが、その点を除けば、(1a) と (1b) はどちらも、話し手が聞き手に静かにするよう、命令や依頼をしており、ほぼ同じ意味だと思われるかも知れません。しかし、本当にそうでしょうか。

(1b) の You がある命令文は、他の人と対比的でない場合にも用いることができます。つまり、高校生用英文法書の記述とは違って、命令文の主語の You は「強調」されなければならないとは限りません。しかし、(1a) の You のない命令文と (1b) の You のある命令文には、大きな違いがあります。(1a) は、単に聞き手に静かにしてくださいと依頼 (や命令) をしているのに対し、(1b) は、話し手が聞き手よりも立場が上で権威があり、聞

主語のない定動詞句文

第3章

● はじめに

第1章では、主語 *you* が省略されるはずの命令文に、3人称の主語が現われる場合を考察しました。また、第2章では、主語 *you* が省略されていない命令文を考察しました。本章では、主語のない定動詞句文を考察します。定動詞句とは、現在時制か過去時制を表わし、主語と人称、文法・数の一致を表わす動詞句のことです。

英語と日本語の構文法的な違いとして、よく、英語の定動詞句の主語は、その指示対象が明らかな場合でも明示されなければならないが、日本語の定動詞句の主語は、その指示対象が明らかな場合には、自由に省略できる、ということがあげられます。次の文は、この違いを示すものです。

- (1) a. 明日 ϕ 健君に会いに行くつもりです。
b. *Tomorrow, ϕ am planning to go to see Ken.
- (2) a. 健なら、 ϕ まだ2階で寝ています。
b. *As for Ken, ϕ is still in bed upstairs.

(1a) では、「健君に会いに行くつもりです」という話し手の意図を表わす動詞句の主語、「私は」がありませんが、この文は完全な適格文です。他方、(1b) では、同じような意味を表わす *am planning to go to see Ken* という動詞句の主語が省略されています。

穴あけ規則

第4章

● 「穴あけ規則」と「右枝節点繰上げ規則」

英語には、「穴あけ規則」(Gapping)と呼ばれる、動詞、あるいは動詞で始まる単語連続(以下、両者をまとめて「動詞表現」と呼びます)を省略する規則があります。この規則は、等位接続詞 and, or, but で結ばれた等位節で、1番目の節の動詞表現とそれに続く節の動詞表現が同じ場合に、後者の動詞表現を省略する規則です。次の(b)文は、(a)文にこの規則を適用してできた文です((3)はRoss(1970)から)。

- (1) a. John **likes** Mary, and Tom **likes** Jane.
 b. John **likes** Mary, and Tom ϕ Jane. (ϕ = likes)

- (2) a. I **ate** fish, Bill **ate** pork, and Harry **ate** roast beef.
 b. I **ate** fish, Bill ϕ pork, and Harry ϕ roast beef. (ϕ = ate)

- (3) a. I **want to try to begin to write** a novel, and
 Mary **wants to try to begin to write** a play.
 b. I **want to try to begin to write** a novel, and
 (i) Mary ϕ **to try to begin to write** a play. (ϕ = wants)
 (ii) Mary ϕ **to begin to write** a play. (ϕ = wants to try)
 (iii) Mary ϕ **to write** a play. (ϕ = wants to try to begin)
 (iv) Mary ϕ a play. (ϕ = wants to try to begin to write)

動詞句省略規則

第5章

● 「動詞句」という構成要素

次の Speaker A と Speaker B の会話を考えてみましょう。

(1) Speaker A: (病気の相手に) Can you eat?

Speaker B: a. Yes, I can eat.

b. Yes, I can ϕ . (ϕ = eat)

英語には、助動詞のあとの、文脈から復元可能な不定動詞表現(不定動詞、あるいは不定動詞とそれに続く単語連続)を省略する規則があります。(1Bb) は、この規則を(1Ba) の不定動詞表現 eat に適用することによって派生した文です。

次に、Speaker A と Speaker B の次の会話を考えてみましょう。

(2) Speaker A: Can you eat beef?

Speaker B: a. Yes, I can eat beef.

b. Yes, I can ϕ . (ϕ = eat beef)

c. *Yes, I can ϕ beef. (ϕ = eat)

適格文(2Bb) は、この規則を(2Ba) の eat beef に適用することによって派生した文です。他方、(2Bc) は、(1Bb) でこの規則の適用を受け得ることを示した eat に適用して派生した文ですが、この文は、不適格文です。これはどうしてでしょうか。

従属接続詞の反復

第6章

● はじめに

次の日本語文とそれに対応する2つの英文を見てみましょう。
記号√は、それに続く文が、何らの不自然さもない適格文であることを示します。

- (1) 私たちは、それをすることができるし、それをするべきだから、そうしています。

a. √We're doing it **because** we can and we should.

b. √We're doing it **because** we can and **because** we should.

(1a) では、we can and we should という2つの文の前に、理由を表わす接続詞 because が1つだけ現われています。他方、(1b) では、because が反復され、それぞれの文の前に because が現われています。(1a) も (1b) も、ともに完全に適格な文です。同様、次の日本語文とそれに対応する2つの英文を見てみましょう。

- (2) 彼らは、これらの見出しが、情報に富んでいて効果的なので、使っているのです。

a. √They are using these headlines **because** they are informative and they are effective.

b. √They are using these headlines **because** they are informative and **because** they are effective.

書き言葉に見られる There 構文 —どんな動詞が用いられるか—

第7章

● 書き言葉での there 構文

There 構文と言うと、誰しも次のような文を思い浮かべ、動詞は be 動詞に決まっていると思われるかも知れません。

- (1) a. There **is** a coin under the table.
b. There **are** three women in the room.

しかし、話し言葉ではなく書き言葉では、特に文学作品や学術的な書き物などで、次のように be 動詞以外の動詞も用いられます。

- (2) a. Once upon a time there **lived** a king who had three beautiful daughters.
「昔々、3人の美しい娘のいる王様が住んでいました。」
b. In the middle of the sea battle, there **arose** a storm which neither side had anticipated.
「その海戦のさなか、どちらの側も予期していなかった嵐が起きました。」
c. There will eventually **come** a time when people can live in peace.
「いつかは人々が平和に暮らせる 때가やってくるでしょう。」
(3) a. There seems to **exist** a satisfactory explanation of this

場所句倒置文 (1)

—There 構文とはどこが違うか—

第8章

● 「場所句倒置文」とはどんな文？

日本の有名なおとぎ話『桃太郎』は、次のような書き出しで始まっています。

- (1) むかしむかしあるところに、おじいさんとおばあさんが住んでいました。(おじいさんは山へ柴刈りに、おばあさんは川へ洗濯に……)

ここでは、時と場所を示す「むかしむかしあるところに」が、文頭に現われています。日本語は、通例、動詞が文末に現われるので、(1) では、この時と場所を表わす表現のあとに主語の「おじいさんとおばあさんが」が置かれ、自動詞の「住んでいました」が、文の最後にきます。

さて、英語のおとぎ話や物語でも、この (1) に類似した次のような文がよく見られます。

- (2) a. Once upon a time in a faraway land lived a contented prince.
「昔々遠く離れたところに幸せそうな王子が住んでいました。」
b. In a little white house lived seven dwarfs.
「ある小さな白い家に7人の小人が住んでいました。」
c. On the grass under the apple tree dozed the old man and his

場所句倒置文 (2)

—どんな動詞が用いられるか—

第9章

● はじめに

私たちは前章の冒頭で、英語の場所句倒置文が、「場所句 + 動詞 + 主語」の語順をとり、動詞が *lived*, *dozed*, *lay*, *is*, *stood*, *appeared*, *came* の次の文を見ました。

- (1) a. Once upon a time in a faraway land **lived** a contented prince.
「昔々遠く離れたところに幸せそうな王子が住んでいました。」
- b. On the grass under the apple tree **dozed** the old man and his son.
「そのりんごの木の下で老人とその息子がうとうと居眠りをしていた。」
- c. Under the doormat **lay** the key to the front door.
「そのドアマットの下に玄関の鍵があった。」
- d. On the hall table **is** a crystal vase full of roses.
「玄関のテーブルにたくさんのバラが生けられたクリスタル製の花瓶が置いてある。」
- e. Under the apple tree **stood** a tall middle-aged woman.
「そのりんごの木の下に背の高い中年の女性が立っていた。」
- f. From the mansion **appeared** an old man with a stick.

二重目的語構文と「所有」の意味

第10章

● はじめに

みなさんは、(1a) のような二重目的語構文と、それを to を用いて書き換えた (1b) の構文との間に、(2) のような意味の違いがあるのをご存知でしょうか。

- (1) a. Mary **taught** that boy English.
 b. Mary **taught** English to that boy.

- (2) (1a) は、メアリーがその少年に英語を教えた結果、その少年が英語を学んだ (習得した) ことを表わすが、(1b) は、メアリーがその少年に英語を教えたと述べるだけで、その少年が英語を習得したかどうかまでは分からない。

次の例でも、同様の違いが観察されます。

- (3) a. The pitcher **threw** the shortstop the ball.
 b. The pitcher **threw** the ball to the shortstop.
 (4) a. I **kicked** Mary the ball.
 b. I **kicked** the ball to Mary.